

易く胃いされるやうに感かんじられてならぬ。併しかしこれから先きでなくては確かなことはいはれぬ。それから再患さいがん説せつと一回説かいである。一回百日咳ひゃくじつせきに胃いされたものは再び胃いされない、恰あたも天然痘てんねんとうと同じやうにいふ人もあるし、再度さいだも三度さんども胃いされ易いといふ説せつもある。この経験けいけんもこれから先きのことである。

○普通に輕重けいちゆうの度は年長者ねんちやうしやが輕い。男女だんなちやうでは女兒むすめが輕いやうに思はれる。極く輕きは一週間位いっしゅうかんぐわい、百日咳ひゃくじつせきであつたか位のもある。何しろ僕わたくしのところの梁りやうは五歳ごさいのが重くて、七八十日過ぎた今日こんにち切りに音おとの食物じきよくを欲する傾向けいかうが見える。確かに健康けんかうの快復期かいふきになつたのである。三歳さんさいのは今に朝夕あした、一二回づつ劇しく咳せきく、この方は發病後四週間はつびやうごししゅうかんである。○百日咳ひゃくじつせきの看病かんびやうは他人たにんにさせろと云ふ俚言りげんも初耳はつみみである。蓋し實の父母ふぼは子供こどもが苦しく殘酷ざんこくの有様ありさまを堪え見ることが出來ぬためであらふ。以つて如何に困難くわんなんな、厄介やくがいな、厭ふべき病氣びやうきであるかい推し量しりやうかられる。○僕は右の持重法ぢぢゆうほうの中にある肝癰かんしよくを起して劇しく

咳せきの出でぬやうにとの條件てうけんに應ずる爲めに、三歳さんさいの子供こどもの一番氣に入つた電車でんしゃ乗りを、殆んど三十日休みなしに行つたのである。傳染でんせんするといふから、他人たにんの子供こどもの家に來ることも禁ずるが、勿論もちろん此方こちらから行く譯にも行かぬ。それで電車でんしゃに乗つて何處どこへ行くかといふに、殆んど行くところがない。外濠そとわりを一週して何處で降りるのですかと怪まれ、千住せんじに向つては名倉なぐらでも往くのですかと疑はれ、八九十度の炎天えんてんに電車でんしゃ納涼なつりやうも洒落しやれてると冷やかす友があれど、心配しんぱいな病兒びやうじをかへて、納涼なつりやうどころか、何時いつも歸りは汗ビツシヨリ、反對に冷やかになるは懷中くわいぢゆうばかり、さても今年は飛んだ、お客きやく様に舞まひ込まれて、餘計よけいな知識ちしきを得たことがあるよ。(完)

德育に就て

樂 天 子

教育けういくは智育ちいく德育とくいく體育たいいくの三つが全ふして、その効果かうくわを挙げ完全ちんぜんの人になるのであるが、智育ちいくは段々だんだんに進むが、德育とくいくと體育たいいくは段々に衰へる、志ある人は

之を嘆きて體育も德育も進めやうと言つて種々の工夫をやつて居るが、兎角進まぬのみならず段々衰へる、是は今の中に挽回せねば、實に如何ともすべからざるに至るは明かである、體育は姑く措き德育の事を少し述べやう、今日世の教育に従事するものが、唯德育德育と言つてもいかぬ、徳は得と云ふ事にて、身に得たのでなければならぬ、唯知つたばかりではいかぬ、今日世の教育者たるべきもの果して悉く其徳を身に得たるものあるや否や私は之をよく知らぬ、若し身に得ぬ人があつて言行一致せぬものがあるとすれば何を以て德育の實行を得ることが出来るか、何を以て兒童の心に感ぜしむることが出来るや、人の心は靈妙なるものであつて、殊に子供は成人よりは妄念が少い故殊更靈妙なるものである、故に眞誠に身に得たるものに非れば、德育は眞に行届くものでない、故に人の師となるものは、至誠を以てするに非れば、子弟を感化せしむる事は決して出来ぬのである、苟くも至誠を以てすれば如何に致し方のない者でも屹度感化せしむることが出来るので

ある、夫はつまり人に靈妙の心のないものはないからである。

抑々智育德育體育は鼎足の如きものであつて其の一を缺けば世の中の役に立たぬものである、いくら智慧があつても徳がなければ、その智慧が悪方にばかり働いて、却て世の中の害をなし、自らの害をなす、またどれ程智慧があり徳があつても身體が弱くてヨボヨボして居ては其智慧と徳とを用ゆることが出来ぬ、又徳があり身體が強くても餘り智慧がなくては仕様がなない、故に鼎足の如きものである、然るに世の中の人々は智育を一番貴んでは、德育の如きは餘り必要とも思はぬものがある、夫はなせさういふ事を思ふかと云ふに、德育は心即ち精神上の事で無形である、無形のものは何と言つても有形ほど大事の様に思はぬ、智も無形であるけれども智は直ぐに其の效が物に現はる、から人が誰でも見ることが出来る、徳も直ぐに現はる、けれども徳のないものにはよく見えぬ、徳にも進取と退守があつて、進んで人のため世のため己の身を顧みず徳をなすが進取の道徳である、

唯一身を潔くして善き事もせぬが悪い事をせざる
 は退守の道徳に傾きて居る、西洋の道徳は進取の
 方に傾きて居る、實に世の中を見るにこの三育の
 揃ふた人は少い、假令三育とも短くても揃ふた方
 がよい、好し一方が長くても一方が缺けて居ては
 鼎が立たぬ、それでは少しも用をなさぬ、現に世
 の中を見ても分る、智慧があつても用ゐられぬの
 で貧乏して居る者もあり、徳があつても身體の利
 かぬ者があり、身體は立派でも馬鹿で用ゐる所の
 ない者がある、此れ皆三足の揃はぬので不具であ
 るからである、世の兒童教育に従事するもの智育
 のみを進めても役に立たぬ事を知らねばならぬ、
 世の中の人には、智の効能は直ぐに己の身に適切
 に來ることを知る、けれども徳の効能は他人に行
 く様に思ふ、是れ思はざるの甚しきものである、
 道徳の効能は一層も二層も大に我が身に報いて來
 るものである、彼のナポレオンも道徳の力は身體
 の力に十倍すと言つて居る、道徳の効能は適切に
 己の身に報いて來るものであることを眞に信する
 事の出來ぬ中は至誠の心が發せぬ、至誠の心が發

せぬ中は眞に兒童を感化せしむることが出來ぬ、
 故に人の師たるものは、至誠の心を發するといふ
 事が一番初めである、至誠といふ事は何事に就て
 も必要であるが、人の師となるものは己れ一身に
 止まらぬ、子弟の身にまで關係を及ぼす故殊に必
 要なのである、夫から先入主となると云ふ事があ
 つて、子供の心は淡泊純粹のものである、之に先
 入するものが必要であつて、若し先入其宜しきを
 誤れば實に其人を誤るものである、決して輕卒に
 思つて貰ふてはならぬ、之を思へば兒童の教育に
 當れるものゝその責任の重き事は實に山の如きも
 のである、然るに輕卒に心得る者あるは實に嘆ず
 べきことである。

小兒に玩具を持たせぬ 主義に就いて

玩具に關する名家の説は家庭雜誌や新聞の上など

湘陽生